



学習困難児の授業参加に関する研究

キーワード

学習困難児, 授業参加, 教師, 実践知, 指導技術

研究内容

生活面や学習面でさまざまな課題のある子どもが授業に参加できるためには、教師の優れた指導技術が関係していると考えています。その熟練技ともいえる教師の指導技術を、少しずつ解明するべく研究をしています。具体的には、教師へのインタビューや授業観察を行い、分析を行っています。また、カリキュラムにも教師の指導技術が反映されると考え、多様な背景を持つ教育的支援の必要な子どもが参加できる授業カリキュラムについても研究を始めたところです。インクルーシブ教育の実現に向けて、理論と実践の往還を意識した研究を目指しています。

関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- ・小里直通・新井英靖（2019）「児童の思考の深化を促す教師の指導技術に関する研究」茨城大学教育学部紀要（教育科学）68号，P217-224
- ・小里直通・新井英靖（2022）「学習困難児の『つぶやき』を拾い、学びをつなぐ授業づくり」新井英靖編著『特別支援教育のアクティブ・ラーニングとカリキュラム開発に関する実践研究』，福村出版，P180-189
- ・関口貴之・小里直通（2023）「学習の見通しをもつための「算数科学びの系統表」の作成」日本特殊教育学会第61回大会
- ・2023年12月に、校内研修の講師として、「共生社会を実現させるためのインクルーシブ教育」という演題で、講義・演習を務めました。
- ・小里直通・西村晃一（2024）「特別な教育的支援を必要とする児童の存在を前提にした授業づくりに関する研究 - 「生徒指導上の実践上の視点」での分析を通して -」日本生徒指導学会第25回鳴門大会

社会連携・産学連携の可能性

- ・校内研修等において、先生方と一緒に、授業づくりや指導方法について、考えさせていただくことができると思います。
- ・多様な背景を持つ児童生徒の学びの場づくり等について、ともに検討することができると思います。